

神代卷藻鹽艸

玉木正英著。元文4（一七三九年）刊。『日本書紀』の注釈で、天の岩戸開きの箇所得手力雄神に注している。

手力雄ノ神ハ力士名ヲ以テ才徳ヲ知ルヘシ即チ思兼ノ神ノ子今信濃國戸トカクレ隱明神ト稱スル是也又紀伊ノ國牟婁郡天手力男ノ神社舊紀ニ坐ニ佐那之縣一也ト云ヘリ神名式伊勢ノ國多氣ノ郡佐那ノ神社

註 新日本古典籍総合データベースを「日本書紀 藻鹽草」で検索。116コマ目。国文研鶴飼, 96-44-1～5, 刊, 5冊, 26.2×18.4cm, 大, 国文研蔵, 200018237。DOIに10.20730/200018237とあるも不通。

神代卷藻鹽草辨正

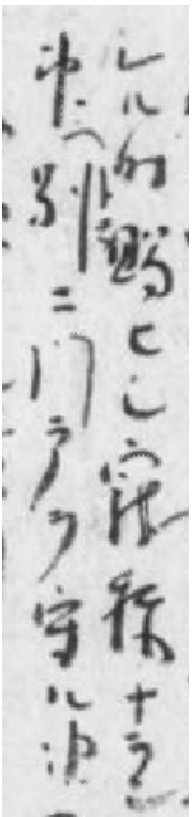
寛延三（一七五〇年）。『日本書紀』の註である「神代卷藻鹽艸」のさらなる註のようなもの。冒頭の「藻鹽草辨正発題」に「寛延庚午初夏下澣 谷墓麻呂謹書」とある。

戸隠に触れてはいないが、「神代卷藻鹽艸」を補うものとして掲げる。

手力雄命神ハ力士——是也同上

手力雄命神ハ女神也天石門別八倉媛ノ神号国史ニ見ユト云
説アリ然トモ男神ニシテ女神ノ号アルヲ外ニモ例アレハ日
神ト同殿ニ祭レル時賜ヒシ? 1 称ナラン女神ト見ルヘカラ
ス後案ルニ天石門別神別? 2 二門戸ヲ守ル神ナレハ手力雄
神ト混スヘカラス是寔ニ女神ト見エタリ

註 ? 1 と ? 2 の部分は未判読。画像は左の通り。



新日本古典籍総合データベースを「神代卷藻鹽草辨
正」で検索。DOI 10.20730/100064833。478 コト目。

高知県立高知城歴史博物館 山内文庫 ヤ 170 - 56